

環境省 持続可能な開発目標（SDGs）活用した  
地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業  
〈令和元年度 事業計画〉

# 竹生島・びわ湖北部の 魅力発掘プロジェクト

竹生島タブノキ林の保全・再生事業推進協議会

2019.4

# ①取組で目指す地域像

## 2022年度末 地域の状態

- 本プロジェクトに興味のある滋賀県外の人材が移住し、リーダー役として地域のプラットフォーム運営に携わっている。
- クラウドファンディングの金額でプロジェクト運営が一部行えている。
- 事業全体を検討するプラットフォーム会議と個々の事業を検討するチームが市内外の多様な主体で構成されている。
- 協議会の財源となるエクスカーショが5コース確立でき、一部は実施され、財源確保が行われている。
- エクスカーショを構築する地域資源の発掘が長浜市内のすべてで完了している。
- 地域の多様な課題に取り組む主体と協調・連携する活動が計画されている。\*
- SDGsを活用したつながりにより、他地域との交流が計画されている。\*

## 2019年度末 地域の状態

- 本プロジェクトに興味のある滋賀県外の人材が何らかの形で地域の取り組みに関わっている。
- 長浜市に興味がある滋賀県外の人材との交流によりクラウドファンディングの金額が昨年より増加している。
- 事業全体を検討するプラットフォーム会議が構築できている。
- エクスカーショやクラウドファンディングといった個々の事業を検討するチームの素地ができ始めており、一部では検討が行われている。
- 協議会の財源となるエクスカーショが2コース確立できている。
- エクスカーショを構築する地域資源の発掘が竹生島がある旧びわ町で完了し、旧びわ町以外の地域資源の発掘が行われている。
- 多様な課題に取り組む主体が集まる場（市内）へ参加し、地域内での認知が進む。\*
- SDGsを活用した発信について、地域で検討・協議している。\*

目指す未来  
からの逆算

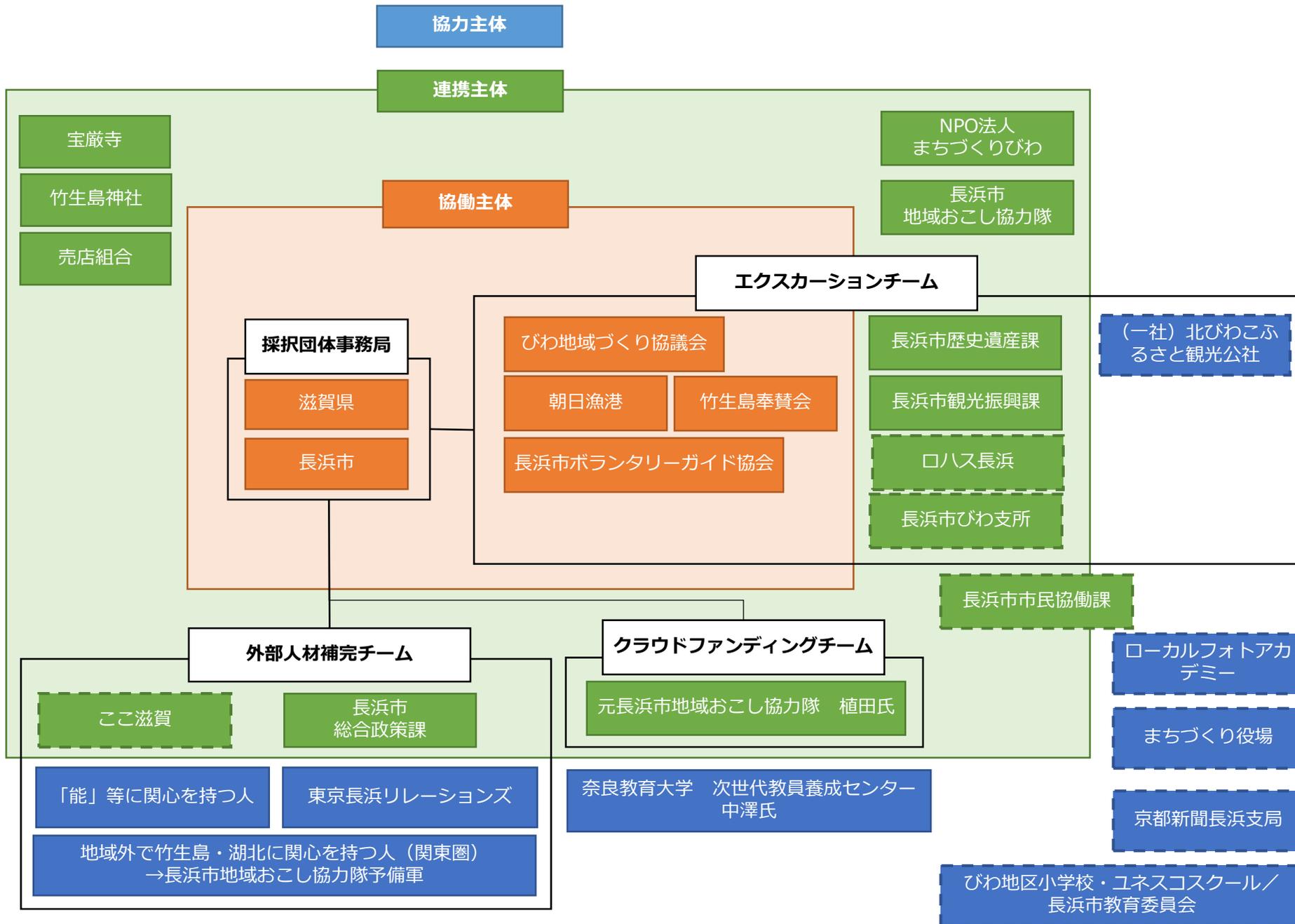
## 2018年度末 地域の状態

- 長浜市に興味がある首都圏の人材と交流ができ、事業推進のアドバイスがいただける関係性ができている。
- エクスカーショを検討するプラットフォーム会議を多様な主体で開催できている。
- 協議会の財源となるエクスカーショが1コース確立できている。
- エクスカーショを構築する地域資源の発掘が竹生島がある旧びわ町で行われている。
- エクスカーショを検討するプラットフォーム会議を多様な主体で開催できている。

目指す未来  
からの逆算

赤：人材発掘  
橙：クラウドファンディング  
青：プラットフォーム  
緑：エクスカーショ

## ② 運営体制の整理（ステークホルダーとの関係性）



### ③ 2019年度末までの到達目標

項目	目標 (課題に対してどの程度解決に繋がる取組が進められるか)
<p>【取組課題①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業として持続的に運営する資金・体制がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ここ滋賀」などを活用した長浜市の地域資源の魅力を伝えるワークショップを開催し、本事業に関心を持つ人材を発掘する。その中から、事業に関われる人 1 ～ 2 名発掘する。 →発掘した人材を対象とした支援体制について長浜市内の他部局と検討が進んでいる。</li> <li>・能「竹生島」等に興味関心がある層に向けた P R 活動を行い、クラウドファンディングの支援金額向上に努める。</li> <li>・多様な課題に取り組む主体が集まる場（市内）へ参加し、地域内での取組の認知が進む。</li> </ul>
<p>【取組課題②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業を検討するプラットフォームがない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業参画の可能性がある団体等にヒアリングし、プラットフォーム会議及び事業推進チームへの参画を促す。</li> <li>・事業全体を検討するプラットフォーム会議を開催し、参加団体の事業参画意欲を高める。</li> <li>・個々の事業を検討・実行する事業推進チームの会議の場を作り、参加者一人一人がプロジェクトに貢献している自覚を芽生えさせる。</li> </ul>
<p>【取組課題③】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹生島とその周辺の地域資源が教材化されていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に詳しい団体へヒアリングを行い、地域資源を発掘する。それらを使って地域の団体や外部有識者、外部人材などを巻き込んだワークショップを開催し、地域資源の関係性を浮き彫りにする。</li> <li>・協議会運営の運用益を目指したエクスカージョンのパイロット版を実施し、アンケート集計などから課題やニーズなどを明らかにする。その結果を検証して、マニュアルを作成する。</li> <li>・教材化におけるSDGsの活用について、関係者が検討・協議する。</li> </ul>



## ⑤ 2カ年事業計画（H30.8）からの変更点

計画の変更点（項目）	変更した理由
③ 2019年度末までの到達目標 <取組課題①>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業では、持続的な事業運営を図るためにふるさとクラウドファンディングFAAVOを活用した資金確保に取り組んでいます。昨年10月に国立能楽堂にて能「竹生島」の観覧者を対象としたPRを試行的に行いました。クラウドファンディングやカワウにより竹生島が危機的な状況になっていることについてほとんど認知されていないことが明らかになりました。今年度はクラウドファンディング期間中にPRを行い、昨年度以上の資金確保に努めます。</li> <li>・なお、一部の能楽愛好家の事業に対する関心は高いと考えられるため、竹生島だけではなく、琵琶湖周辺を舞台とする能の演目とも関連づける。</li> <li>・地域の社会課題との多様な課題に取り組む主体が集まる場（市内）への参加を加えました。</li> </ul>
③ 2019年度末までの到達目標 <取組課題③>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源の教材化に際して、事業を通じたSDGs達成に向けた貢献について、関係者が検討することを加えた。</li> <li>・たとえば、淡水域・陸域生態系の保全（ゴール15）のための持続的取組について、同様の課題を持つ地域との交流を視野に入れた発信について検討する。</li> </ul>
④ 課題解決に向けたスケジュール（平成31年度） <事業全体の予定>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕様書に基づき、連絡会の回数を修正（2回→1回）にしました。</li> </ul>
④ 課題解決に向けたスケジュール（平成31年度） <取組課題①>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「能・公演会場でのPR」を追加しました。（夏期）</li> <li>・次年度のファンディングについてクラウドファンディングチームの検討の場を追加しました。（2月）</li> </ul>
④ 課題解決に向けたスケジュール（平成31年度） <取組課題②>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕様書に基づき、プラットフォーム会議の回数を修正（3回→4回）にしました。</li> </ul>
④ 課題解決に向けたスケジュール（平成31年度） <取組課題③>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕様書に基づき、エクスカージョンのスケジュールを変更しました。</li> </ul>

## ⑥ その他補足事項

### ■ 事業を進める上での課題やリスクとその対策

- ・ 本協議会は補助金をベースとした取り組みであるため、経済的に持続可能でないことが課題である。竹生島の森林保全を持続させるために新たな資金源の確保が急務である。
- ・ 本協議会の構成団体の多くは高齢者であり、今後の活動を担っていく若者世代の参画が必要である。
- ・ 「学び」「体験」「共感」という要素を含んだ魅力的な竹生島周辺に関わるエクスカーションは少ない。地域資源の掘り起こしを地道に行っていくことが必要である。
- ・ 2019年度、本協議会の事務局員（長浜市）が人事異動により担当者が変わった。地域との繋がりやこれまでの事業の取組状況も踏まえると取組が順調に進めない恐れがある。
- ・ 湖北地域での多様な課題解決に取り組む主体と交流する場への参加など、市が取り組む市民協働推進施策との連動性を高めるようながす。
- ・ 地域おこし協力隊を含む多様な主体にさまざまな役割で事業に関わること、教材化において市内外の学校関係者が関わる場をつくることなど、多様な関わりの機会の創出に留意する。

### ■ その他、留意事項などがあればお書きください

- ・ 3年目（事業期間終了以降）のことも想定しつつ、資金・体制づくりを意識した取組みを行う。